

香美市の現状

- (1) 位置・交通
- (2) 人口・世帯
- (3) 住宅建築
- (4) 流入・流出人口
(通勤通学者の動向)
- (5) 産業別就業人口
- (6) 企業立地
- (7) 市への愛着度

(1) 位置・交通

- 本市は、高知県東北部に位置し、県都高知市から約15～40kmの圏内にあります。
- 高知龍馬空港（東京、大阪、名古屋、福岡便あり）から車で約15分、鉄道ではJR高知駅から特急で15分、岡山から2時間20分、高速道路では高知自動車道南国インターチェンジから約15分の時間距離にあり、岡山、大阪、東京といった都市から1～2時間で到着することができます。
- 市内の道路としては、物部川に沿って、市域を貫く国道195号線を軸に、県道日ノ御子土佐山田線、久保大宮線があり、各集落を結ぶ道路網が発達しています。
- 公共交通機関としては、鉄道（JR土讃線）のほかにJRバス、ときでん交通バス、市営バスがあります。

ACCESS MAP



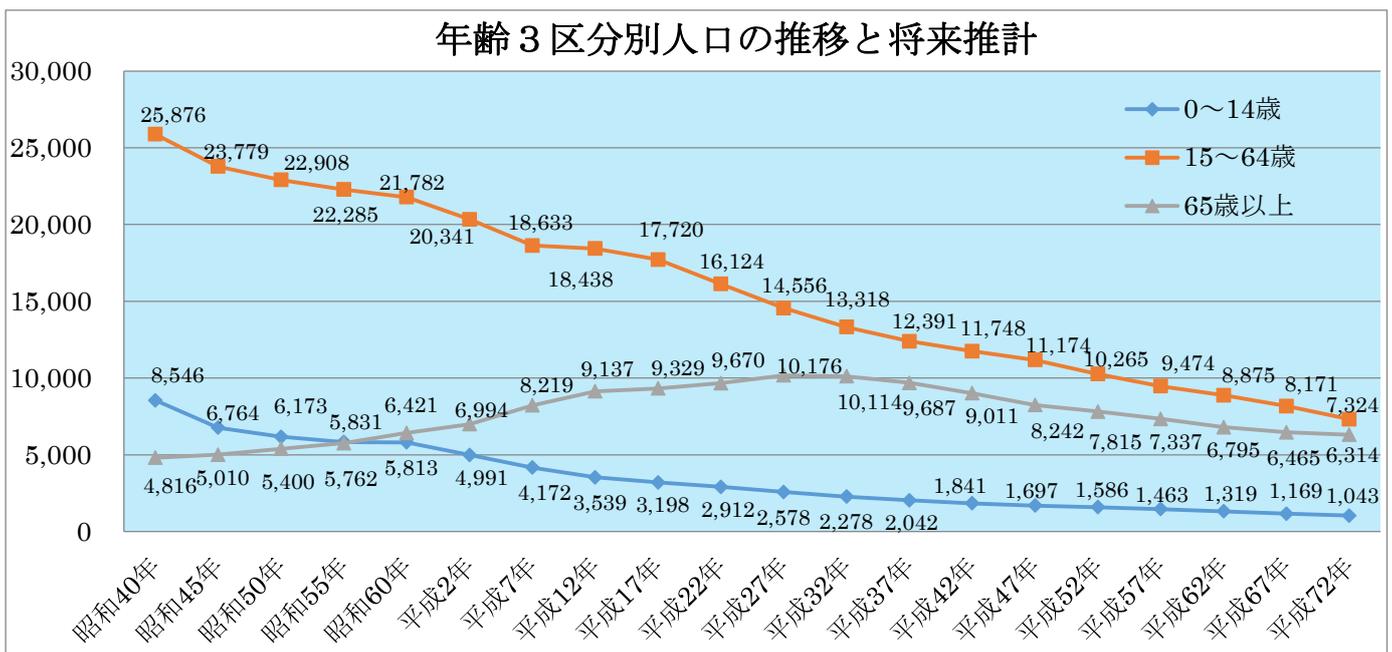
(2) 人口・世帯

本市の人口は、平成26年4月1日現在27,626人（高知県推計人口調査・毎月人口統計）となっています。昭和30年代まで4万人を超えていた総人口は、昭和40年代に入ると4万人を割り、現在に至るまでに徐々に減少を続け、平成22年の国勢調査結果では、28,766人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成52年（2040年）には19,665人まで減少し、さらに平成72年（2060年）には14,681人まで減少するとされています。

今後も予想される出生率の低下に加え、将来的な生産年齢人口の縮小という問題も抱えています。



資料：H22までは総務省「国勢調査」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所



資料：H22までは総務省「国勢調査」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所

平成26年5月には、日本創成会議・人口減少問題検討分科会より提言がなされ、地方からの人口流出がこのまま続くと、日本の「再生産力」を示す「若年女性（20～39歳）が2040年までに50%以上減少する市町村が全体の49.8%にのぼると推計されており、これらの市町村は、いくら出生率があがっても将来的には消滅するおそれが高いとされています。

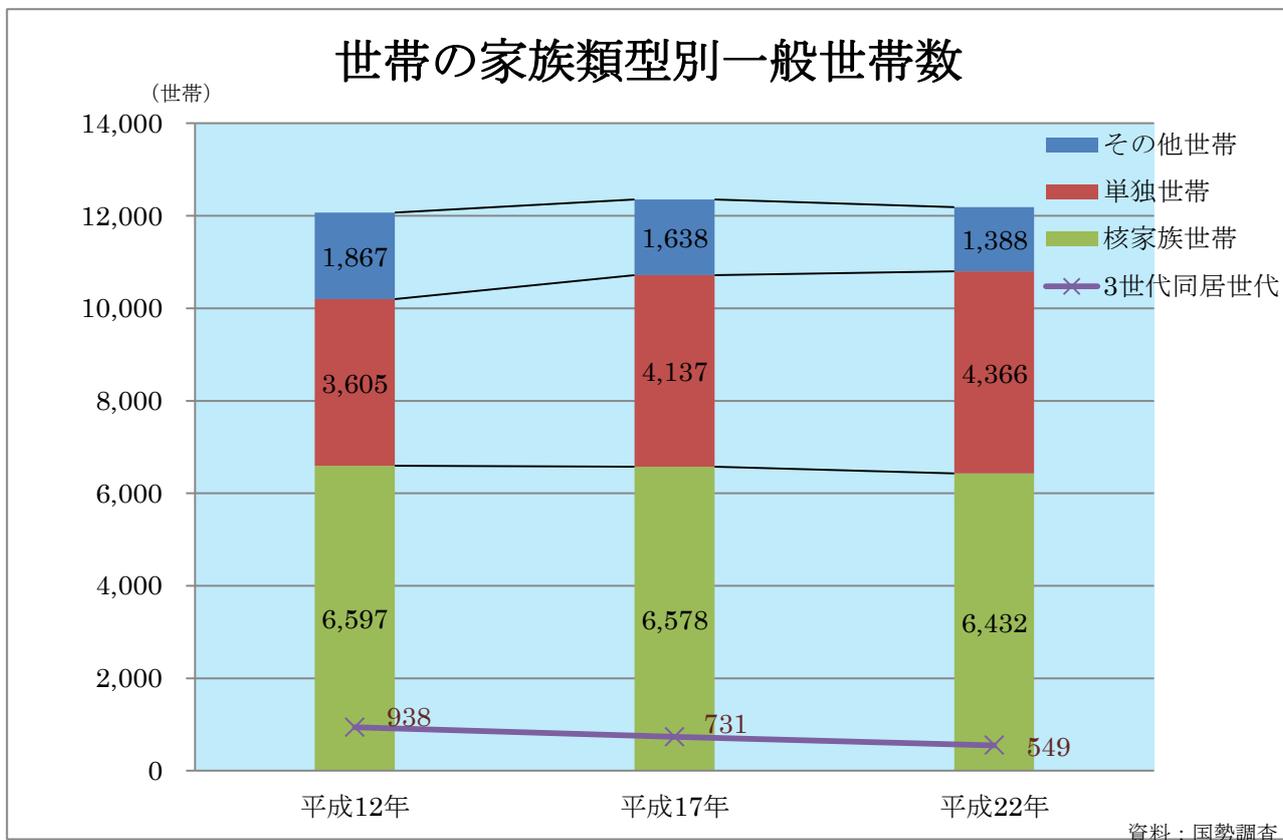
香美市においては、40%台で留まっているものの若年女性人口も大幅な減少傾向にあります。

香美市の「20～39歳女性」将来推計人口

①国立社会保障・人口問題研究所推計					②日本創成会議試算				
2010年 (平成22年)		2040年 (平成52年)		若年女性 人口 変化率	2010年 (平成22年)		2040年 (平成52年)		若年女性 人口 変化率
総人口	20～39歳 女性	総人口	20～39歳 女性		総人口	20～39歳 女性	総人口	20～39歳 女性	
28,766	2,481	19,664	1,433	△42.2%	28,766	2,481	19,204	1,276	△48.6%
		△ 1,048					△ 1,205		

資料：日本創成会議・人口減少問題検討分科会 提言
「ストップ少子化・地方元気戦略」(H26.5.8公表)
全国市区町村別「20～39歳女性」の将来推計人口(資料2-1)

世帯数では、単独世帯の伸びが増えている一方で、親・子・孫が同居する、いわゆる「3世代同居世帯」が減少しています。この背景としては、大学生の増加や高齢者の単独世帯の増加などが考えられます。



※単独世帯：一人で生活している者

※核家族世帯：夫婦のみ、夫婦とその未婚の子女、父親または母親とその未婚の子女

高齢者のいる世帯の状況を地域別にみると、最も高いのが物部町73.4%となっており、次いで香北町63.3%、土佐山田町45.2%となっています。

高齢者単独世帯（一人暮らし）は、各地域で増加傾向にあります。

地域	世帯構成	平成12年	平成17年	平成22年
土佐山田町	全世帯数	8,599世帯	9,058世帯	9,065世帯
	高齢者のいる世帯	43.6%	43.1%	45.2%
	高齢者単独世帯	10.9%	12.0%	13.3%
香北町	全世帯数	2,074世帯	2,032世帯	2,001世帯
	高齢者のいる世帯	62.4%	62.5%	63.3%
	高齢者単独世帯	16.3%	17.0%	19.3%
物部町	全世帯数	1,396世帯	1,263世帯	1,120世帯
	高齢者のいる世帯	67.9%	71.6%	73.4%
	高齢者単独世帯	19.6%	23.8%	27.8%

資料：国勢調査

年齢・男女別の人口変動を見てみると、10代前半から後半にかけては増加、10代後半から20代前半に減少する傾向が見られます。10代後半については、高知工科大学への進学による市外からの転入に伴う増加と、進学などによる市外への転出が原因と考えられ、20代前半から後半にかけての人口減少は、高知工科大学を卒業した者が、就職等に伴い市外へ転出する人が多いことが原因と考えられます。

20代後半から30代前半にかけて、女性の人口増加が見受けられ、また50代にも若干の人口増加傾向があり、移住やUIターンなどが原因と考えられます。

年齢（5歳階級）・男女別の人口

	平成17年10月1日				平成22年10月1日				変化率※		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女
総数（人）	30,247	14,654	15,593	100%	28,766	13,873	14,893	100%			
0～4歳	938	484	454	3.10%	831	442	389	2.89%	1.026	1.037	1.013
5～9歳	1,080	543	537	3.57%	962	502	460	3.34%	1.036	1.048	1.024
10～14歳	1,180	616	564	3.90%	1,119	569	550	3.89%	1.336	1.562	1.090
15～19歳	1,666	997	669	5.51%	1,577	962	615	5.48%	0.938	1.075	0.732
20～24歳	2,012	1,407	605	6.65%	1,562	1,072	490	5.43%	0.586	0.436	0.937
25～29歳	1,432	781	651	4.73%	1,180	613	567	4.10%	0.975	0.924	1.035
30～34歳	1,554	789	765	5.14%	1,396	722	674	4.85%	0.977	0.977	0.976
35～39歳	1,241	594	647	4.10%	1,518	771	747	5.28%	0.973	0.985	0.961
40～44歳	1,397	678	719	4.62%	1,207	585	622	4.20%	0.985	0.994	0.976
45～49歳	1,707	839	868	5.64%	1,376	674	702	4.78%	0.998	0.981	1.014
50～54歳	2,045	986	1,059	6.76%	1,703	823	880	5.92%	1.014	1.015	1.013
55～59歳	2,475	1,226	1,249	8.18%	2,074	1,001	1,073	7.21%	1.023	1.025	1.020
60～64歳	2,191	1,021	1,170	7.24%	2,531	1,257	1,274	8.80%	0.974	0.955	0.990
65～69歳	2,061	898	1,163	6.81%	2,133	975	1,158	7.42%	0.939	0.914	0.958

70～74 歳	2,269	993	1,276	7.50%	1,935	821	1,114	6.73%	0.903	0.859	0.937
75～79 歳	2,165	890	1,275	7.16%	2,048	853	1,195	7.12%	0.836	0.764	0.887
80～84 歳	1,451	542	909	4.80%	1,811	680	1,131	6.30%	0.729	0.633	0.787
85～89 歳	872	256	616	2.88%	1,058	343	715	3.68%	0.587	0.512	0.619
90～94 歳	390	91	299	1.29%	512	131	381	1.78%	0.400	0.275	0.438
95～99 歳	106	20	86	0.35%	156	25	131	0.54%	0.160	0.200	0.151
100 歳～	15	3	12	0.05%	17	4	13	0.06%			
不詳					60			0.21%			

資料：国勢調査

*変化率は、年齢（5歳階級）別人口の5年後の変化率を示している。

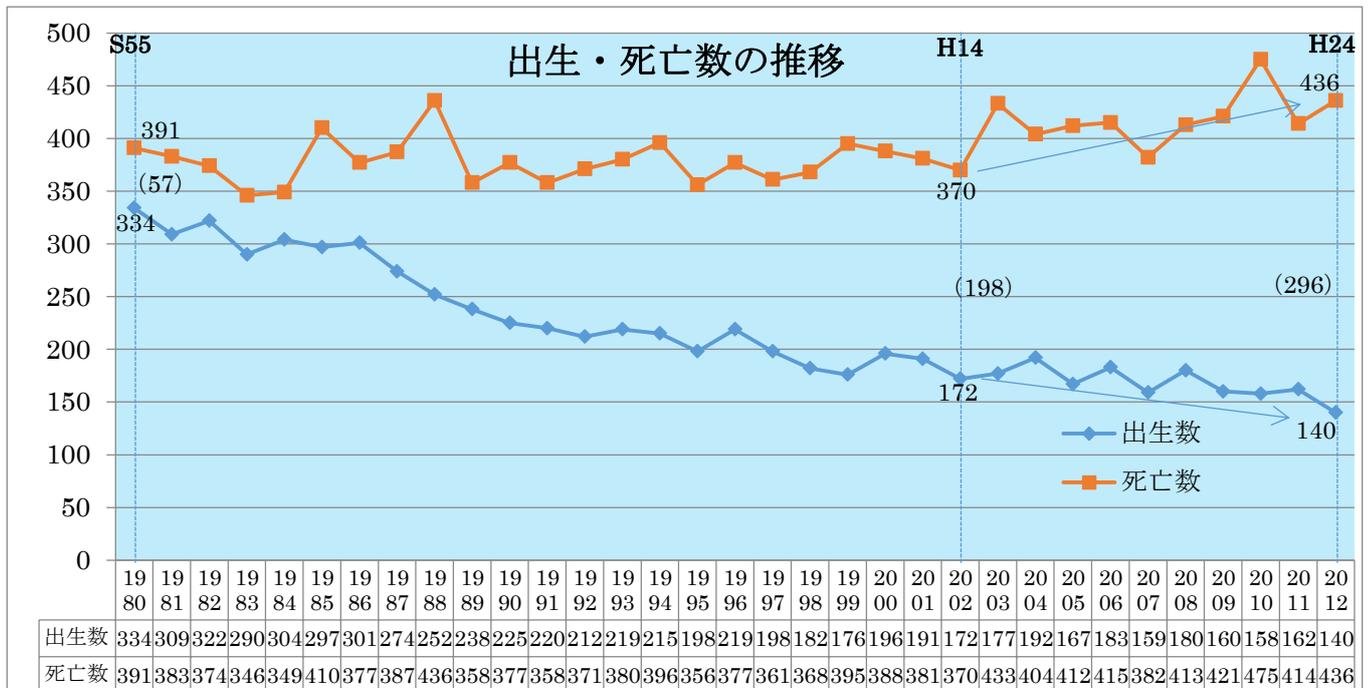
例えば、平成17年に15～19歳の総数は1,666人であるが、5年後の平成22年には20～24歳の総数は1,562人となり、変化率は $1,562 / 1,666 \approx 0.938$ となる。

また、平成17年に20～24歳の総数は2,012人であるが、5年後の平成22年には25～29歳の総数は1,180人となるため、変化率は $1,180 / 2,012 \approx 0.586$ となる。

本市の人口動態を見てみると、死亡者数が出生者数を大きく上回り、年間平均230人程度の自然動態による人口の減少が続いています。

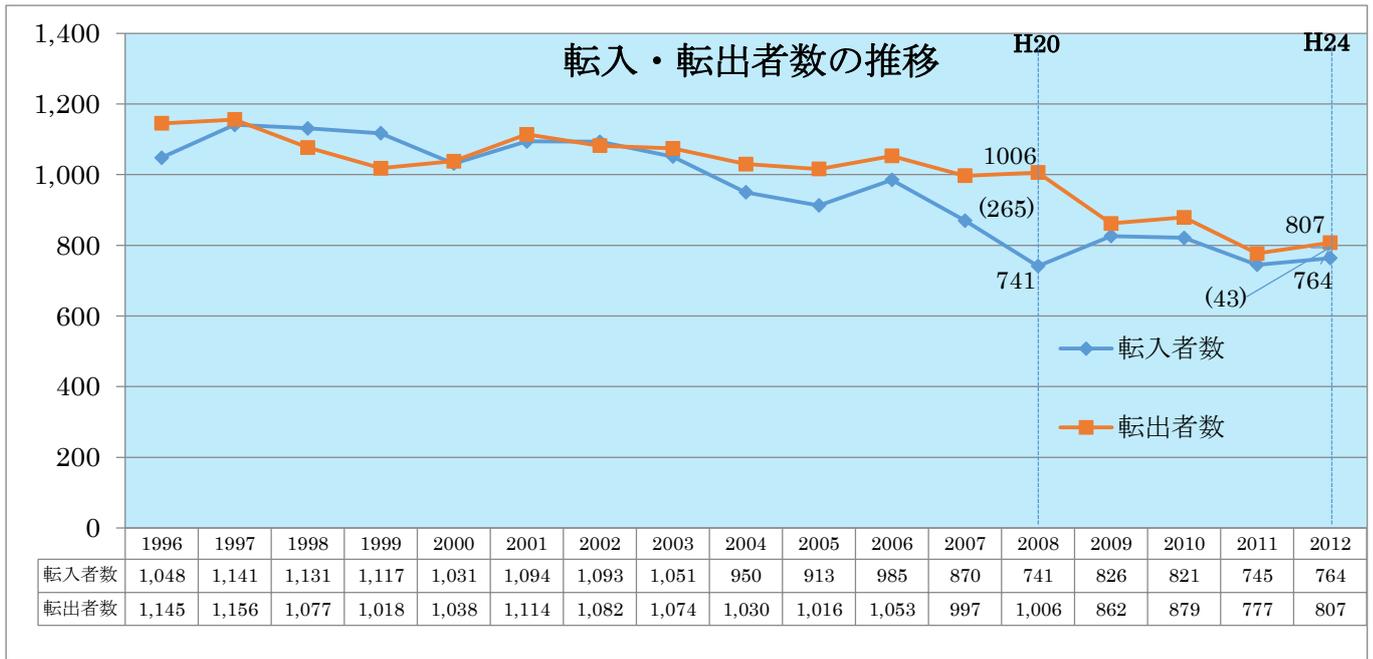
また、就職や進学等を機に市外へ転出する若年層を中心とした人口流出も考えられますが、東日本大震災後には、高知県内で唯一津波被害の心配がない市ということで、平成23年以降は、社会動態による人口減少には歯止めがかかりつつある傾向も見られ、人口の減少は年間平均40人程度に留まっています。

●自然動態



資料：厚生労働省・人口動態調査

●社会動態

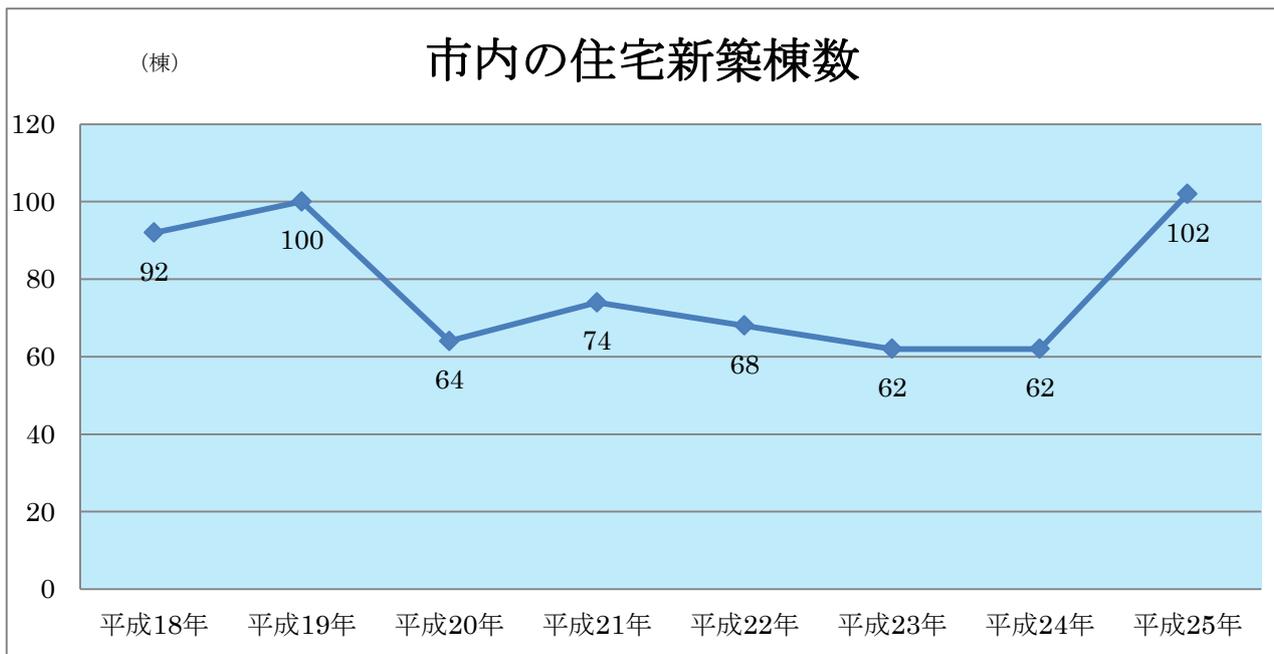


資料：厚生労働省・人口動態調査

(3) 住宅建築

本市の住宅新築の動きを見ると、平成20年から24年までは60から70棟代で推移していましたが、平成25年には100棟代に増加しています。

これは、消費税増税による駆け込み需要の増が原因と考えられます。



資料：香美市税務課固定資産税班調べ

(4) 流入流出人口（通勤・通学者の動向）

平成22年の国勢調査によると、本市の流入人口（他の区域から本市への通勤・通学者）は4,417人です。

一方、流出人口（本市から他の区域への通勤・通学者）は5,393人となっています。高知市への流出2,589人をはじめとした県内への流出が5,216人であり、全体の96.7%となっています。

本市における市町村別流入・流出（15歳以上）人口

（平成22年10月1日現在、単位：人）

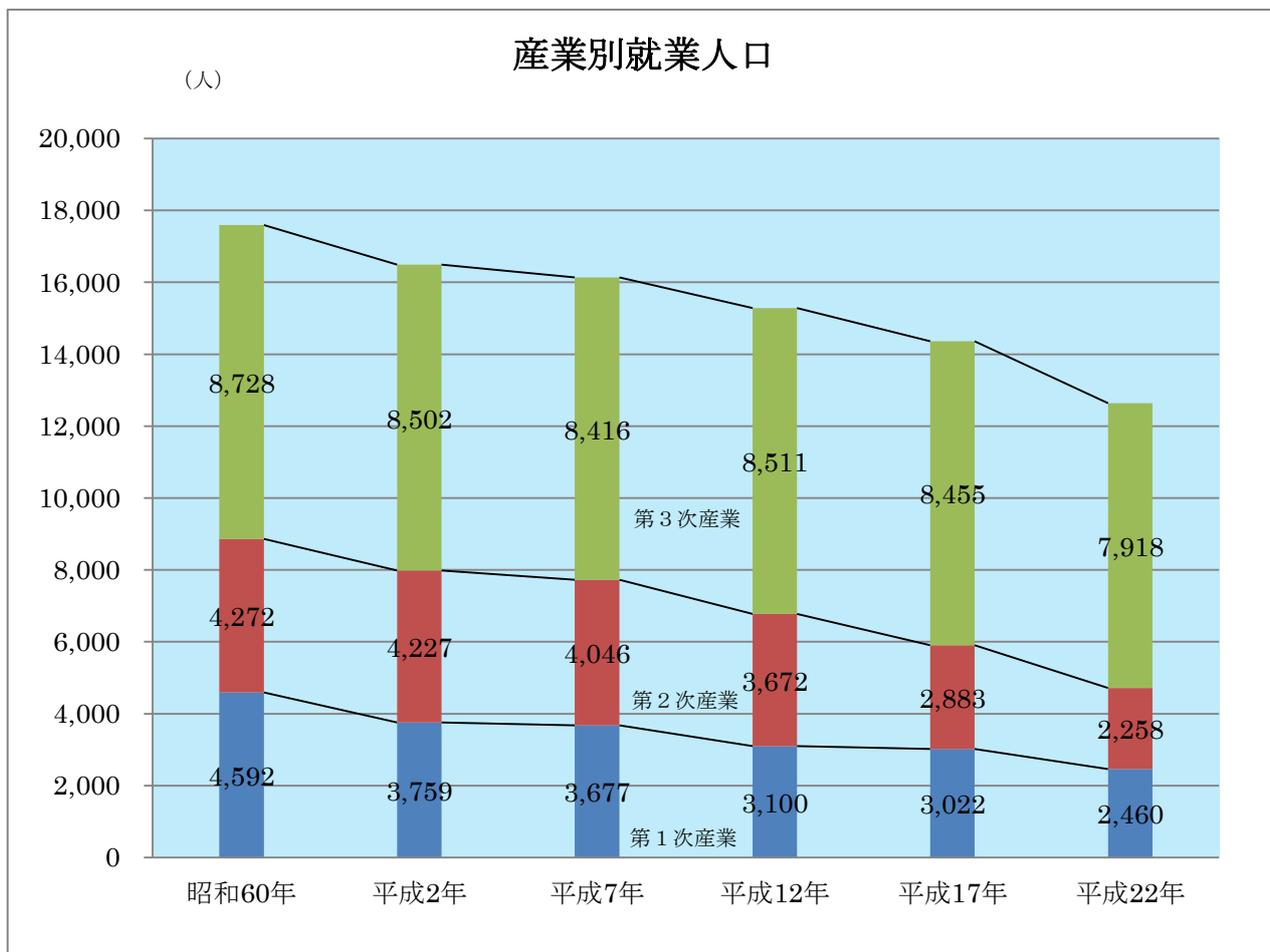
市町村名	流 入			流 出		
	総数	就業者数	通学者	総数	就業者数	通学者
総数	4,417	3,656	761	5,393	4,788	605
県内総数	4,356	3,635	721	5,216	4,631	585
高知市	1,593	1,314	279	2,589	2,164	425
室戸市	4	3	1	6	6	—
安芸市	126	90	36	87	83	4
南国市	1,221	1,068	153	1,557	1,426	131
土佐市	32	23	9	36	24	12
須崎市	10	5	5	16	15	1
宿毛市	1	—	1	2	2	—
土佐清水市	—	—	—	2	2	—
四万十市	—	—	—	1	1	—
香南市	1,153	975	178	766	756	10
奈半利町	2	1	1	4	4	—
田野町	3	3	—	10	10	—
安田町	9	6	3	1	1	—
北川村	—	—	—	4	4	—
馬路村	—	—	—	1	1	—
芸西村	33	22	11	36	36	—
本山町	22	17	5	16	16	—
大豊町	44	38	6	37	36	1
土佐町	11	9	2	11	11	—
大川村	—	—	—	1	1	—
いの町	61	45	16	21	20	1
仁淀川町	2	—	2	—	—	—
中土佐町	1	1	—	2	2	—
佐川町	16	10	6	1	1	—
越知町	2	—	2	1	1	—
日高村	6	4	2	1	1	—
津野町	2	—	2	1	1	—
四万十町	—	—	—	3	3	—
黒潮町	2	1	1	3	3	—

県外総数	61	21	40	40	40	—
徳島県	13	3	10	4	4	—
香川県	7	2	5	9	9	—
愛媛県	8	3	5	9	9	—
その他の都道府県	33	13	20	18	18	—

資料：国勢調査

(5) 産業別就業人口

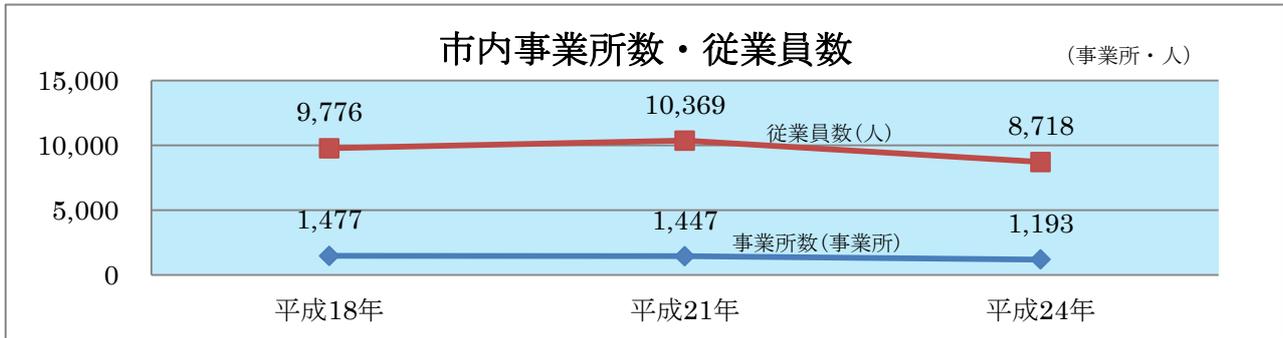
昭和60年の国勢調査結果では、就業者数17,592人で、第1次産業4,592人(26.1%)、第2次産業4,272人(24.3%)、第3次産業8,728人(49.6%)でした。平成22年の国勢調査結果では、就業者数12,636人で、第1次産業2,460人(19.5%)、第2次産業2,258人(17.9%)、第3次産業7,918人(62.7%)となり、第1次・第2次産業人口が減少傾向にあります。また、第3次産業の就業者数は、第1次・第2次産業に比べ、ゆるやかな減少傾向にあり、第3次産業が過半数以上(62.7%)を占める結果となっています。



資料：国勢調査

(6) 企業立地

市内の事業所数・従業員数ともに減少傾向にあります。平成21年から平成24年にかけては、製造業の事業所の市外移転や福祉産業の一部撤退などにより、従業員数が大幅に減少しています。



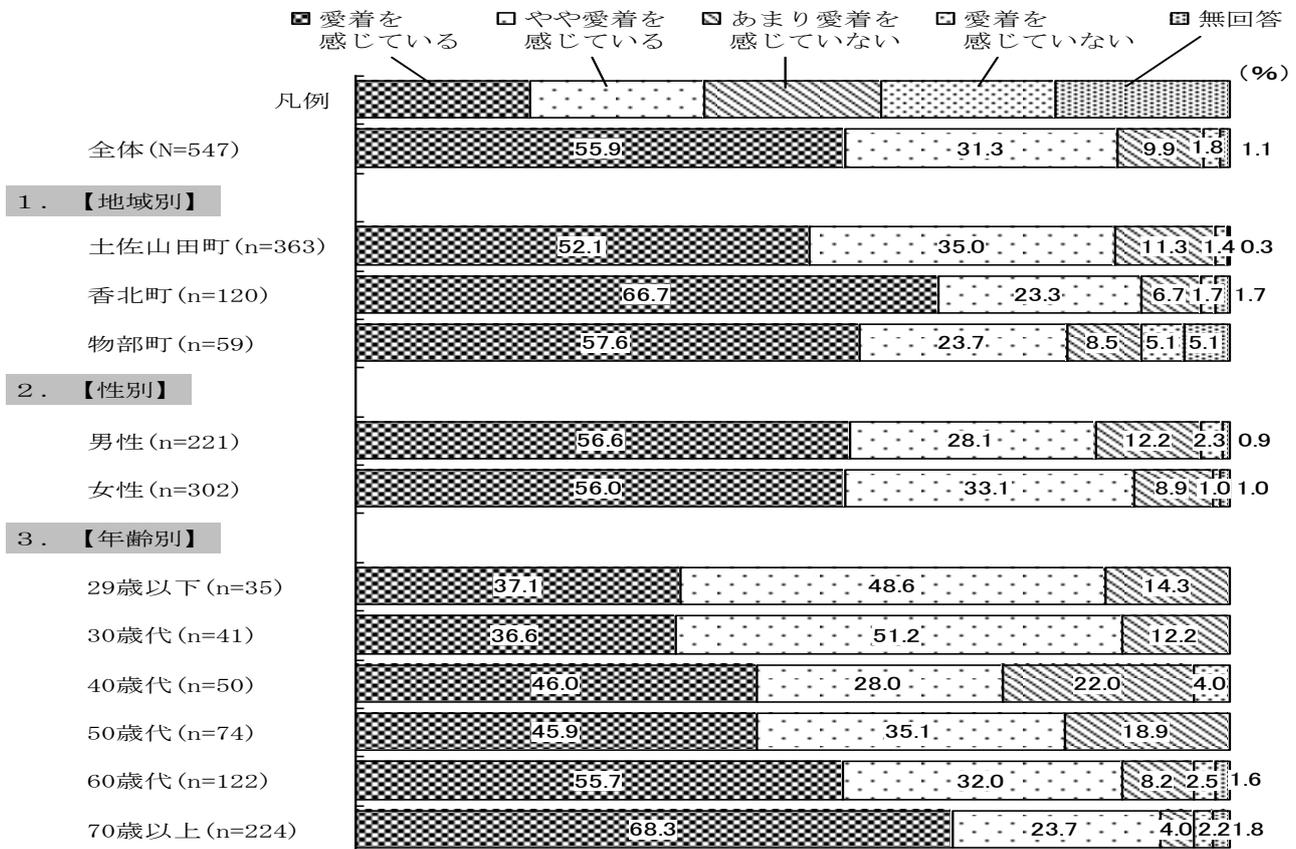
資料：経済センサス活動調査（平成24年）

(7) 市への愛着度

地域の愛着度については、「愛着を感じている」が55.9%、「やや愛着を感じている」が31.3%で、合計87.2%が『愛着を感じている』と回答している。一方、「あまり愛着を感じていない」は9.9%、「愛着を感じていない」は1.8%で、合計11.7%となっています。

地域別では、他の地域に比べ香北町で「愛着を感じている」割合が高くなっています。

性別では大きな差は目立ちませんが、年齢別では年齢が上がるほど「愛着を感じている」割合も高くなる傾向にあります。



資料：第1次振興計画「後期基本計画」市民アンケート調査報告書